

松沢宥さんの

生誕100年祭開催へ

下諏訪出身の芸術家

世界へ、いざ

コンセプチュアル・アート（概念芸術）で世界に知られた下諏訪町出身の芸術家、松沢宥さん（1922〜2006年）の生誕100年を記念し、諏訪地方の団体が来年1月29日から、作品や人生を紹介する生誕100年祭を始める。町内の諏訪湖博物館・赤彦記念館やゲストハウスなど諏訪地方の計10カ所でも、展示やイベントなどを通じ、松沢さんの芸術を広く知ってもらおう。

諏訪地方で来年1月29日開幕

県立美術館は2月から回顧展



松沢宥さん（2001年1月、ロンドン）

松沢さんは旧制諏訪中（現諏訪清陵高校）から早稲田大学理工学部に進み、建築を学んだ。卒業後、諏訪実業高校定時制で数学の教員を務め、町内の自宅アトリエ「プサイの部屋」で制作に打ち込

み、前衛芸術家草間弥生さん（1927〜2020）もたびたび訪れたという。国際芸術祭などにも出品し、世界的な評価を受けた。絵画や彫刻など物質にとらわれず、文字やパフォーマンスといった形式で自身の思想を伝えたことで知られる。

県立美術館（長野市）が来年2月2日から松沢さんの生誕100年記念の回顧展を企画。これに合わせ、諏訪の信仰や民俗を研究する団体「スワニズム」美術部の林聡一さん（岡谷市）らが「諏訪に根差したこんな面白い人を知らないのはもったいない」と地元でのイベントを考えた。同記念館を主会場に、「マサゲストハウス」やカフェなどで作品を展示。松沢さんはのぼりを使ったパフォーマンスでも知られ、同記念館には「人類よ消滅しよう 行くところへ」反文明委員会などという書かれた巨大なのぼりの



松沢さんが制作に打ち込んだ下諏訪町の自宅のアトリエ「プサイの部屋」（長沼宏昌さん撮影）

レプリカなどを飾る予定だ。林さんは「インターネットも何もなかった時代に、地元でやり続け、世界で認められた希有な才能だった。地元の人たちに知ってもらいたい」と話している。

種類	価格	1日に用意する席数
SS席	2万6000円	300席
S席	2万3000円	800席(4月9日は1300席)
S席(入れ替え制)	旅行会社経由で販売	500席×2回(4月8日と10日のみ)
A席	2万円	100席
B席	1万7000円	400席
車いす席	1万7000円	30席



SS席付近から見た木落し坂。手前の河川敷部分でS席になる予定だ

2022 御柱

下社山出しの木落とし 観覧席 前回の半分以下
密回避 3日間で7390席販売

下諏訪町御柱祭実行委員会が22日、諏訪大社御柱祭の下社山出し（来年4月8〜10日）で行う木落としの有料観覧席の詳細を発表した。客席数は計7390席。新型コロナウイルス対策で密を避けるため、3日間で約1万7千席を販売した前回2016年の半分以下とした。席数を減らした一方、設置費用を賄うため1席当たりの価格は前回の3倍超となった。

観覧席は、下社木落とし坂下の砥川河川敷に設ける。B席と車いす席を用意。価格は1万7千円〜2万円。一般向けに最大53席を販売する。8、10日旅行会社のプランなどとする。チケットにはオリジナルのタオルマフラーとラが付き、入れ替え席以外産と弁当もセットになる。木落としは最大斜度55度の急坂に御柱を滑り落とす社山出し最大の見せ場。委員は20日、感染防止対策を急ぎ、急ぎで発表し、小年実行委員長（下諏訪議所会頭）は「感染対策で上上で木落としの醍醐味わってほしい」と訴え

チケットはインターネットで抽選販売し、詳細は近柱祭観光情報センターホームページに掲載する予定。期間は来年1月8〜23日。抽選結果は2月4日に発表。諏訪広域圏で単独染警戒レベルが4以上に引き上げられたことを受け、中止になるため、観覧席は中止。その場合、事られるタオルマフラー1代1万1千円分と販売料を除いた金額を返金

支援

岡谷工業高生徒会が義援金

「Tシャツの売上金 一部を充当

さん（18）は川岸地区に住む同級生もいるとし、「身近な所で起きた大きな災害。義援

トヨタガスレーシングラリーチャレンジ 来春茅野で3年ぶり開催

ちつくり推進協議会が、行委員会の主催で、これら運動公園を会場とし、